

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 21 日現在

機関番号：17201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21653052

研究課題名（和文） 過疎集落の医療・保健福祉サービスと連動した効果的な災害救助・防災システムの研究

研究課題名（英文） Creating the most Effective Disaster Relief and Relief Systems as Disaster Crisis Management Link with Medical, Health and Human Services in Depopulated Area in Japan

研究代表者 北川 慶子 (KITAGAWA KEIKO)

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：00128977

研究成果の概要（和文）：

過疎集落の災害経歴過疎地域の水害、土砂災害危険リスクについての被災経験のデータを GIS により、過疎集落の災害リスクを捉えた。災害時要援護者の日常生活のみならず災害時の避難の在り方を支援する社会福祉専門職の避難の在り方のチャートを作成した。施設入所の要援護者とともに地域（過疎集落）の医療・保健福祉サービスを担う福祉専門職が災害時に救助するために、地域包括支援センターの災害時支援度には様々な課題があることが明らかになった。災害時には、地域の災害時要援護者の支援をすることができるのは、過疎集落の医療・保健福祉サービスの福祉専門職である。災害時に円滑な救助支援には、地域包括支援センターに様々な課題があることが明らかになった。DMAT 研修は、要援護者の救助には有用でありそれを補助する人々の教育も必要であることが本研究の結論である。

研究成果の概要（英文）：

We have created the GIS MAP of flood and land sliding risks in the community of depopulated area, based on previous flood, sediment disaster hazard data. We also were using GIS system to analyses and to clear the disaster risk. Data of regional disaster experience was useful to make such maps. Vulnerable elderly is needed professional social worker or nurse assistance preparation of disaster (preneed) and during a disaster (at need), in the event of a disaster (after care), because it is difficult to blame.

We found that the role of social welfare professionals to support the evacuation and disaster assistance and more important thing is evacuation drill in daily life. Our research is a means of escape that we created a formula chart in order to support appropriate evacuation of disaster assistance when they needed.

At the event of a disaster, it may possible to aid the vulnerable people as disaster assistance of medical professionals and social workers of Health and Human Services in the depopulated community. To smooth help rescue of vulnerable that there are various challenges to the Regional Support Center when the disaster occurred.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,600,000	0	1,600,000
2010 年度	900,000	0	900,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	150,000	3,150,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：過疎集落、災害時要援護者、ソーシャルワーク、災害医学

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、2007年度から開始した異分野融合による地方都市における災害時要援護者のための防災・減災研究が基盤となっている。それまでの研究成果から、地方都市の中でも過疎地域に居住する要援護者への防災から災害時救助・被災者支援を行う必要性を有していた。

### 2. 研究の目的

過疎集落の高齢者への医療・保健福祉サービスの担い手である福祉専門職（ソーシャルワーカー等）が、災害時には緊急援助の一員となることであれば、被災者のニーズに最適の被災者中心の災害救助となる。

具体的には、過疎集落の高齢者への医療・保健福祉サービスをアウトリーチ型で行うことができれば、地域の災害時要援護者の自立生活を図り、同時に、その担い手である福祉専門職（ソーシャルワーカー等）が、災害時には緊急援助の一員として、被災者のニーズに最適の被災者中心の災害救助を行うことになり、日常の防災意識も喚起できる。医療・保健福祉サービス、災害救助、防災を効果的に連動させるシステム作りが特に高齢化が進む過疎地域には必要である。過疎集落では、地域防災力がきわめて低いことに注目した。過疎集落では、高齢者が被災し、孤立する可能性があり、生命が脅かされる危険性も高い。比較的元気な高齢者が多い過疎集落であるが、定期的に医療・保健福祉サービスを提供することは、高齢者の自立生活を持続可能なものとするし、災害の事前対策、災害時には、その情報を活かし円滑な救助の決め手になる。過疎集落が多く、近年、集中豪雨による土砂災害が深刻化している全国でも有数の土砂災害リスクをもつ佐賀県と熊本県の過疎集落における医療・保健福祉サービスの実態把握、過疎地域の災害履歴と災害リスクを分析する。また、災害救助 DMAT 研修に医・看・福祉の3分野から参加し、災害救助チーム構成のあり方を検討する。これまで蓄積した文献・調査資料、郷土資料からの知見と本研究により、過疎集落に住む高齢者のための医療・保健福祉と連動した効果的な災害救助システム作りを試み、災害時要援護者（高齢者等）災害リスクを分析し、災害医療の在り方の課題も明らかにする。

### 3. 研究の方法

①地方都市の災害リスクの調査、特に災害時要援護者の居住する施設の防災・減災調査

の実施

②災害救助 DMAT の保健福祉専門職への実践参加による災害時対応技術の習得方法

### 4. 研究成果

過疎集落の高齢者への医療・保健福祉サービスの担い手である福祉専門職（ソーシャルワーカー等）が、災害時には緊急援助の一員となることであれば、被災者のニーズに最適の被災者中心の災害救助となるため、過疎集落の災害経歴過疎地域の水害、土砂災害危険リスクについての被災経験のデータをもとに地理情報システム（GIS）を用いて、過疎集落の災害リスクを捉えた。災害時要援護者の日常生活のみならず災害時の避難の在り方を支援する社会福祉専門職の避難の在り方測定を作成することができた。

施設入所の要援護者とともに地域（過疎集落）の医療・保健福祉サービスを担う福祉専門職が災害時に救助するために、地域包括支援センターの災害時記濃度をとらむことができた、また、災害医学の手法による医療従事者が、要援護者をどのように支援するかをさまざまな問題に対応した災害救助から防災までの PAA（pre-need, at need, after care）方式により考察することができた。

毎年実施される国土交通省河川事務所による大規模浸水時を想定した防災訓練に研究分担者も参加して、災害時訓練の在り方を問い直した。

また、2009年には、土砂災害が発生し、現在土砂災害危険地域とされている佐賀県内のI市における土砂災害危険地域の実地調査および要援護者、要援護者支援者団体とのミーティングを行いつつ、同市の市中心地域の過疎地帯と災害時の避難支援に関する検討会の成果として、過疎地域の防災対策（案）を作成した。

我が国の国立大学で唯一の DMAT 研修を行ってきた佐賀大学医学部では、その実践を通して、DMAT 教育そのものの課題を明らかにし、特に災害時の緊急医療における看護職員の役割と課題を看護教育の中に取り組み、災害医療、看護教育の在り方を検討した。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

① 田原美香、北川慶子、高山忠雄、社会福祉施設の避難所機能に関する研究—介護

- 保険施設・障害者自立支援施設に対する全国調査から—日本社会福祉学会九州部会第51回大会抄録集 62-63
- ② 低平地の防災・減災・災害時要援護者の視点から—、低平地研究 vol. 21、1-3、佐賀大学低平地沿岸海域研究センター、2012. 3. 20
  - ③ 永家忠司、北川慶子、猪八重拓郎、他尾一則、東日本大震災の被災地域における社会福祉施設の立地特性について土木計画学研究・講演集、2011. 11.
  - ④ 永家忠司、外尾一則、北川慶子、猪八重拓郎、東日本大震災の被災地域における社会福祉施設の立地特性について、土木計画学研究・講演集、2011. 11
  - ⑤ 北川慶子、永家忠司、自然災害時の支援機能としての地域包括支援センターに関する研究、(査読有) Asian Journal of Human Services, VOL. 1, 123-133, 2011. 912.
  - ⑥ 梅崎節子、新地浩一、秋永和之、松永妃都美、石丸律子、西尾美登里、柴山薫、大隈伸子。看護基礎教育における災害看護の教育内容の検討。Prehospital Care. (査読有) 第24巻第3号, 68-71, 2011
  - ⑦ 松永妃都美、梅崎節子、秋永和之、川原一恵、米満伸子柴山薫、新地浩一。災害看護教員の災害看護学における教育実践上の課題について。Prehospital Care. (査読有) 第24巻. 第2号, 64-69. 2011.
  - ⑧ 秋永和之、梅崎節子、松永妃都美、川原一恵、柴山薫、大隈伸子、矢野潔子、新地浩一。DMAT研修をモデルにした災害医療研修の教育的効果。Prehospital Care. (査読有) 第24巻. 第1号. 56-60. 2011.
  - ⑨ Keiko Kitaagwa, A Research of the Improvements in Relief Measures for Disaster Victims in Long-Term Care Facilities — from Nationwide Investigation of Long-Term Care Insurance Facilities & Disabled Facilities, 2010. 12 韓国老人福祉館 (依頼論文) 25-35
  - ⑩ 北川慶子、宮本英揮、介護保険施設の自然災害被災経験と防災意識に関する研究、老年社会科学 2010. 10(査読有)
  - ⑪ 松永妃都美、新地浩一、災害看護学の教育における技術演習に対する看護教員の認識。第41回看護教育, 学術論文集 (査読有) 205-208. 2010
  - ⑫ 北川慶子、宮本英揮、佐賀県の地方都市における高齢者の防災意識と土砂災害リスクの啓発、老年社会科学第31巻第1号 3-11 (査読有) 2009. 10
  - ⑬ 宮本英揮、北川慶子、甲本達也、地域情報閲覧 Web サービスを利用した佐賀県における過疎・高齢化の地理的特性の評価、農業農村工学会論文集、262、119-124、2009、査読有
  - ⑭ 宮本英揮、北川慶子、中山間地域集落の山地災害リスクの評価、佐賀大学文化教育学部研究論文集、14(1)、261-272、2009、査読無
- [学会発表] (計 14 件)
- ① Keiko Kitagawa, Tadashi Nagaie, Hean Ok, Pyoh, Boki, A Research of Support Function of comprehension Support Center at the Time of Disaster, 2012.02 AGHE, Boston
  - ② Keiko Kitagawa A Short History of Moderate Fee Homes・Care-House for the Aged, , Symposium on The Social Significance and Future Direction of Moderate Fee Homes・Care-House for the Aged in Japan, proceedings of 21st Asia Pacific Social Work Conference, Tokyo, 2011
  - ③ 田原美香、北川慶子、高山忠雄、災害時の支援機能としての地域包括支援センターに関する調査研究—地域包括支援センターに対する全国調査から—、第59回日本社会福祉学会、淑徳大学、2011.10.8-9.
  - ④ 田原美香、北川慶子、高山忠雄、社会福祉施設の避難所機能に関する研究—老人福祉施設・障害者自立支援施設に対する全国アンケート調査から—、第52回九州社会福祉学会、西九州大学、2011.6.18-19
  - ⑤ Keiko Kitagawa, Tadashi Nagaie, Vulnerable People should Learn Social Welfare Facilities can be used as Evacuation Center, 2011 AGHE Association for Gerontology in Higher Education, Mar.19.2011, Cincinnati, Ohio, USA
  - ⑥ Keiko Kitagawa, Hideki Miyamoto, Kazunori Hokao, Research on the Disaster Victim Relief Measure Improvement in Long-Term Care Facility, 36th Annual Scientific Meeting, Association for Gerontology in Higher Education, 2010.03, Reno
  - ⑦ 新地浩一、矢野潔子、秋永和之、瀧健治：佐賀大学医学部における実践的な災害医学の教育について、第15回日本集団災害医学会総会、2010.2、千葉
  - ⑧ 秋永和之、矢野潔子、新地浩一、佐賀大学における実践的な災害医療研修の教育効果、第15回日本集団災害医学会総会、2010.2、千葉
  - ⑨ Keiko Kitagawa, Hideki Miyamoto, Coping with the Natural Disaster Impact for the Elderly at Long Term Care Facilities in Japan, 62nd Annual Scientific Meeting, Gerontological

Society of America 2009.11,Atlanta

- ⑩ 北川慶子、宮本英揮、寺町清志,全国の介護保険施設の自然災害被災状況から見た防災意識、第 28 回日本自然災害学会、2009.09、京都

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://extwww.cc.saga-u.ac.jp/~kitagake/profile/profile.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

北川 慶子 (KITAGAWA KEIKO)  
佐賀大学・文化教育学部・教授  
研究者番号：00128977

### (2) 研究分担者

・新地 浩一 (SHINCHI KOICHI)  
佐賀大学・医学部・教授  
研究者番号：30404164

・高山 忠雄 (TAKAYAMA TADAO)  
鹿児島国際大学・社会福祉学研究科・教授  
研究者番号：20254568

・益満 孝一 (MASUMITSU KOICHI)  
九州看護福祉大学・看護福祉学部・教授  
研究者番号：40296372

・外尾 和則 (HOKAO KAZUNORI)  
佐賀大学・工学系研究科・教授  
研究者番号：80275825

・宮本 秀揮 (MIYAMOTO HIDEKI)  
佐賀大学・農学部・准教授  
研究者番号：10423584

・瀧 健治 (TAKI KENJI)  
佐賀大学・名誉教授  
研究者番号：90103746

### (3) 連携研究者

なし